東武商事株式会社
http://www.tobu-s.co.jp/
○産業廃棄物・特別管理産業廃棄物（22品目）処分業
那須総合リサイクルセンター　〒329-2741 栃木県那須塩原市北赤田1575-9 TEL.0287-39-2288
○ピット・水処理施設清掃　産業廃棄物　収集運搬・処分業
松伏リサイクルセンター　〒343-0114 埼玉県北葛飾郡松伏町ゆめみ野東4-4-4 TEL.048-992-1150
○廃油回収・再生重油製造
吉川リサイクルセンター　〒342-0008 埼玉県吉川市旭3-1 TEL.048-992-1039

発行所
日報ビジネス株式会社
Vision Vitality Victory
＜東京＞〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-1-5 電話03(3262)3488 FAX03(5214)6633
＜大阪＞〒541-0054 大阪市中央区南本町1-5-11 電話06(6262)2406 FAX06(6262)2090
＜広島＞〒733-0861 広島市西区草津東2-2-38 電話082(274)2650 FAX082(274)2651

6月12日　No.1350
2017年（平成29年）
週刊　月曜発行
発行人　河村 勝志
平成元年9月22日　第3種郵便物承認
購読料（定価）　年間 22,900円＋税　1部本体 495円＋税

（第3種郵便物承認）

週刊 循環経済新聞
The Recycling Economy Times

産廃・一廃・資源リサイクル業務に対応！
セミオーダーパッケージソフトの
環境将軍R
株式会社エジソン　検索　フリーダイヤル エコな しくみ 0120-857-493　EdiSon

期限までの処理完了へ向け

NEW環境展で発足式

日本PCB全量廃棄促進協会

処理8社が発起人となり設立した（一社）日本PCB全量廃棄促進協会は5月23日、東京ビッグサイトで開催したNEW環境展（主催・日報ビジネス）の出展ブースで、発足式を挙行した。発起人企業や関係事業者などが集まり、協会の前途を祝した。

同協会は、処理期限が迫るPCB廃棄物の処理に向けた調査・処理、情報提供・啓発などの促進を目的に設立。特に、PCBを含有する可能性がある機器の全数調査の事業モデルを確立し、全国に参加企業を展開するとともに、国や自治体とも協力し、官民一体となって処理完了を目指す。

加藤宣行会長

発起人企業は、▽加藤商事（東京都）▽クリーンシステム（山形県）▽グーン（神奈川県）▽アースサポート（島根県）▽加山興業（愛知県）▽近畿環境保全（滋賀県）▽街クリーン（沖縄県）▽甲陽興産（滋賀県）――の8社。協会会長には加藤宣行氏（加藤商事）、副会長に鈴木隆氏（クリーンシステム）と藤枝慎治氏（グーン）、専務理事に尾崎俊也氏（アースサポート）、そして理事に上記発起人企業8社代表が就任した。

発足式のようす

発足式であいさつに立った加藤会長は、処理期限が迫るなか、PCB廃棄物に対する認知度や危機感が低い状況に触れ「自治体の掘り起こし調査が進展するなかで、PCB含有の可能性がある機器の調査や処理の問い合わせは増えてきている。国とも協力し、一日も早いPCB廃棄物の全量廃棄に貢献したい」と意気込みを語った。

市場調査終え、本格事業へ

使用済み太陽電池モジュール リユース・リサイクル一括で

アールツーソリューション

アールツーソリューション（本社・東京、芋生誠社長、☎03・4533・0968）は6月1日付で合同会社から株式会社へ組織変更を行い、使用済み太陽電池モジュールのリユース・リサイクルについて本格的に営業活動を行うことになった。芋生社長は「顧客が不要とした使用済み太陽電池モジュールについて、中古品として販売するリユースと分解・破砕して再資源化するリサイクルとを一括して行うことで買い取りによるサービスを提供できる。できれば何らかの法整備をしていただき、中長期を見据えた事業として育てたい」としている。

昨年3月に市川環境エンジニアリング（本社・千葉県市川市）とネクストエナジー・アンド・リソース（本社・長野県駒ヶ根市）、リサイクルテック・ジャパン（本社・名古屋市）、近畿工業（本社・神戸市）の4社による合同会社として設立された。その後、市場調査を行い、本格的な事業にできると判断し、株式会社に組織変更した。

現段階では、古物商の許可を持つネクストエナジー社が外観検査や絶縁、I－V出力、EL検査などを経てランク分けし再販するリユース事業、産業廃棄物処分業の許可を持つリサイクルテック社がアルミ枠外しやガラス破砕剥離処理などにより「アルミ」「ガラス」「その他（銀や樹脂、シリコンなどの混合物）」を分別し回収イクル事業、ーカーの近畿陽電池モジュの破砕処理装開発を手掛け境エンジは業統括を行っ

使用済み太ジュールにつリユースだけ

再生PET新工場が完成

長繊維の製品販売にも

龍福／アプライズ

再生PET原料化の新工場

山東省濱州市にある龍福環能科技（段建光販売総経理）は、年間20万トンの廃PETボトルを国内外から集めて、長繊維の原料にしてきたが、新たに、廃PETボトルを原料にするための屋根付きの工場を建設した。生産能力は、これまでの1・5倍となる年間35万トンになった。

新工場の敷地面積は、13万3000平方メートルで、建屋の面積は10万6000平方メートル。現在建屋の中に、プレス品を受けるラインを設置した。処理と生産能力は、1時間で8トン、日量20時間稼働する。7月には2ライン目を導入、年内には3ライン目が組み込まれる計画だ。3ラインが完成すると日量480トン処理と原料化ができる仕組み。

年間原料の生産量20万トンの中で、中国国内が4割で海外回収が6割を占める。数年前まで、米国と南米がほとんどで、日本はなかった。昨年、5万トンと急増加。原料は、プレス品が大多数で、フレークは一部のみ受けることができる。

日本の窓口は、アプライズ（大阪市東淀川区、平良尚子社長、☎06・6795・9818）が担当。同社が龍福社とタイアップしてから伸び率は大きい。現在、中国では全コンテナがX線などで検査されているが、問題なく輸出はできている。今では、全回収量の20%以上を日本産のPETくずが占めるまでになった。

アプライズは、中国向け輸出ライセンスも完備して、龍福社からも、原料の調達と長繊維の製品販売を委託される。

龍福社の廃PETボトル受け入れ条件は、250トン圧でプレスすること。40フィートコンテナに23トン積み込めるように、特殊な高い圧をかける必要があるからだ。粉砕サイズは、12～14ミリ、水分8%以内となっている。

龍福社の最大のメリットは、廃PETボトルを全量原料にして長繊維を生産している点だ。再生PETフレークで、ポリエステル長繊維を生産する龍福の生産システムは、国の科学省、商務省、環境保護省およ検査総局の総「国の重要製価された。再ステル工業系き、この製品紡織工業連合学技術成果判けた。

年間8万トリエステル長00万枚の再ステル毛布のきる。中国国からの使用済トルは「粉砕浄」などのエ原料になる。

龍福社は、工場で、毎日トンの汚水を処る。工業団地排水は、国のクリアしなけないようにな

死亡者数

2016

全産廃連

（公社）全国産業廃棄物連合会は5月、2016年の「産業廃棄物処理業における労働災害の発生状況」についてとりまとめ、公表した。産業廃棄物処理業の労働災害による死亡者数は16人で2人減。死傷業4日以上）0人で前年比労働災害の頻度数率は8・業界に比べて害の重さを示

山本環境大臣と丸川オリパラ大臣、芳根京子さんら

6月4日に東京都内で開かれた「エコライフ・フェア2017」（環境省主催）で、山本公一環境大臣と丸川珠代東京オリンピック・パラリンピック担当大臣、女優の芳根京子さんらによる「みんなのメダルプロジェクトトークショー」が行われ、多くの市民らが耳を傾けた。

小型家電などに含まれる金や銀などリサイクル金属を使って東京オリンピック・パラリンピックのメダルをつ

おかげさまで創業60周年
日報ビジネス株式会社
日報ホームページ ―インターネット―
http://www.nippo.co.jp/
ecoたろうくん